

松村通信第64号

2006年3月22日
松村勝弘

徳川家康再論

ゼミ卒業生を送り出す ゼミ卒業生を今年も送り出す。私のゼミがファイナンスであるということもあって、金融機関に働く卒業生が多い。そういうこともあって多くの卒業生が首都圏で働いている。何年か先、否、来年にも今年の卒業生にどこかで集まって貰いたいと思う。楽しみである。今年のゼミは良くまとまっていたと思う。今年の卒業生にも何か言葉を贈りたい。

「器量」という言葉 前回、山岡荘八「徳川家康」を読んでいて書いた。そこでよく出てくる言葉に「器量」というのがある。人間の器量、大きさを言っているのだが、大きい人間と小さな人間がいる、もちろん成長はできる。成長しなければ小さいままで終わる。家康に言わせれば、器量の小さな人間が大きな城を構えるのはよくない。もちろん右腕とも言わなければならない。秀頼のように身を滅ぼすことになる。

「小人閑居して不善を為す」ということわざがある。この小人というのは、辞書によれば「徳・器量の無い者、小人物」という意味である。時々大学の中でも見かけるように思う。変に政治的に動く人物を見かける。自分の器量に見合った動きをしている限りは、別にとがめる必要もない。けれども、暇をもらってあましてかどうかわからないが、まさに「不善を為す」人間がいなければ、別に問題は少ないが、他人に迷惑がかかる場合が困るわけだ。特に困るのは「正義」を振りかざして行動する場合だ。

もちろんこれは自戒の念を込めていっている。自分だって時に他人に迷惑をかけているのではないかと思うからだ。かつて（もはや忘れられようとしている上方芸人である）上岡竜太郎が「人間生きている限りそれは他人に迷惑をかけているのだ」と嘯いていたが、案外見当違いでもない。だから誰でも何程か他人に迷惑をかけているものだが、「正義」を振りかざしてイラクに攻め込んだり、「改革」を振りかざして人を追い込んだりする人たちは、「善意」から出ているだけにたちが悪い。「悪い」と思って悪いことをするのはまだよい。反省の余地があるからだ。良いことをしていると思って悪いことをするのは始末が悪い。この場合、自分で反省するはずがないから悪いわけだ。小人はしばしばそういう行動をしがちだと思う。それにしても、「器量」という言葉は重い。

「徳」 「徳」という言葉も難しい。先の「徳川家康」のなかで、著者は、家康の家臣鳥居元忠に次のように言わせている。元忠は家康に対し次のように言っている。

「結局その人の事業の存続するか否かは、かかって徳にある。太閤さまは器量あって徳が足らななので」

ここでは、「器量」と「徳」とを使い分けられている。小人はその「器量」も「徳」もない人間だということになる。しかしどうして小人は不善を為すのか、それはリーダーに問題があるからでもある。「小人閑居して不善を為す」に続いて「小人は、ひとたび君子の行動を見れば、たちまち善人に立ち返る」とか「君子が、普段の行いで、明徳の行いを実行すれば、国民は皆その徳に感化される」とか「君子が、仁讓の徳を持ち、貪欲<タルイ>の心がなければ、国民も同じように善を為す」とも言われる（永野芳宣『「明徳」経営論』中央公論新社、2005年、68頁）。

大久保長安処刑の後不穏な動きを感じ取って評定が行われたとき、家康が大坂方、キリシタン、さらには自らの六男忠輝、その家臣大久保相模守にまで波及しそうな動揺に際して、そのような動揺を招いた原因の第一にあげたのは家康自身の油断にあると断じている。まさに、小人に不善を為さしめたのは自らの至らなさであると言うのである。まさにリーダーの責任感というものである。

今風に言えば、経営者の責任の重さである。コンプライアンスだとかCSR（企業の社会的責任）などといわれている。しかししっくりこない。日本の感覚、儒教的感覚からすれば、法令遵守など言われなくても分かり切ったことなので、コンプライアンスなどと取り立てて言うことに違和感を感じず。CSRの方が積極的でしっくり来る。まさに「CSRは攻めの経営戦略」（永野、前掲書、83頁）なのである。私の最近の論文（「わが国における社会的責任投資（SRI）論議と問題点とその普及に必要なもの」『立命館経営学』第41巻第5号、2006年1月）でも同様の考え方を述べた。しかしリーダーの責任をCSRなどの言葉では語り尽くせないように思う。むしろ後述するように、今日一部でCSRの言葉で語られているものの中に不穏なものが含まれている。

リーダーの責任という意味では、経営者もさることながら政治家の方が重い。一国の宰相の責任の重さは言うまでもない。だがこの国の宰相にはとうてい「徳」が感じられない。「仁」とか「徳」はもはや死語になったのだらうかと思わせられるほどだ。いやそうではあるまい。「徳」の対極にあると思えるほど

の状況でどうして政権が維持できるのか、それは以前どこかで書いたが、ポピュリズムである。人民迎合主義である。これがナチズムに通ずることも以前書いた。

CSR基準を国際的に作ろうという動きがある。ISOもそうだが、デファクト・スタンダードを確保して世界に押しつけようという動きがある。この動きが「ナチズムに通じる要素を持っている」という指摘もある(永野, 前掲書, 112頁)。世の中物騒である。要するに「徳」がないのである。形式主義なのである。われわれとしてのCSRを考えなければならぬわけである。そこには「徳」がなければならない。

めくら千人めあき千人 「めくら千人めあき千人」という言葉がある。最近では差別用語だなどとしてあまり使われない言葉だが、良い言葉だ。誰にもわかってもらえないと思ひ悩む必要はない、どこかで誰かが見てくれる、だから精一杯やればよいのだ、という意味だ。これをわが師河合信雄先生から言われたとき、「そうか」と気づかされた記憶がある。とはいえ、「めくら千人」であることも事実だ。家康が大阪冬の陣を前に、回避したかった戦をやむなしと決意するに至る過程で、秀頼側の忠臣がどんどん徳川方に寝返ってくる。その中に忠臣中の忠臣である片桐且元までもが寝返った。それに対して秀頼のもとから使者があつて「片桐且元は、不届きしごくの不忠者であるゆえ、処罰するという口上の届け出」があつて、家康をして次のように思わせている。

「しかし、ほんとうの陣頭指揮を決断させたのは片桐且元が、秀頼の目に、許せぬ不忠者と映じていった……という、やりきれない事実を思い知らされたときからだった。

人間の目の不正確さはこれもよく知っている。未熟な者は眼でものを見ずに感情でものごとを判断する。好きなものの中からは美点だけを剔り出し、嫌なものからは欠点だけを探し出す。

と試みてみても、実は、そうした未熟な、不正確な眼しか持たないものが、百人中に九十五人はあり、それが雑然と泣き合ったり、争い合ったりしているのが現実の世界であった。」

実際「めくら千人」なのである。「めあき千人」というのはめあきは少ないのだけれども、千人に匹敵するという意味だと思ふ。だからこそ、「めあき千人」を信じて、自らは努力を重ね、めくらをバカにするのではなく現実を受けとめ、たゆまず説得し導き、筋を通していかなければならぬわけだ。かくてこそ世の中を正すことができるわけだ。

魂が飢えている 山岡荘八は、徳川家康に次のように語らせている。「……人間は腹がふくると、次には魂が餓えるものじゃ。その魂を養う糧は学問……怠らずにな、急がせ

よ……」。今の世の中にぴったりだ。豊かになつたけれど、魂が飢えている。豊かな時代のわれわれが何をしなければならないか、改めて考える必要があると思ふ。

親鸞教の歴史ドラマ 島田克美先生の話はこの通信でも何度か取り上げた。役人から商社、大学と歩かれ、それも定年後何年かたち、今年80歳だという。島田先生から最近いただいた本『親鸞教の歴史ドラマ 忘れえぬ著者たち』(ライフリサーチプレス, 2006年)を読んだ。先生は元来商社論、企業間システム論の専門家だが、調査マンという経歴から丹念なお仕事をされてきた。今回の著書も、方法的にはその延長線上にある。著書の一部を「」で引用しながら、私なりの思いをここでつぶつてみたい。先生も私のこのような用法に理解をして頂けると思ふ。その著書で次のように言われている。「今世の中では、自力主義が流行しているようです。自己責任ともいわれます。しかし、自分の思うようにならなかつたことや、人からいろいろいわれたりしたことが、みな自分の至らなさや、努力不足のせいだと思わなければいけないのでしょうか。」為政者の傲慢をここに見る。為政者たるもの「誰にも空しくない人生を送らせるのが仏の本意あるいは悲願なのだ」という一言を、心に刻んで、これが踏ん張りどころだと、考えたら、どういう世界が開けてくるのでしょうか。」自己責任という言葉で為政者が責任放棄するのは、あまりにも法にかなっていない。

先生は親鸞における信の強調、他力の徹底、を紹介されている。「何かを自分で思えばその通りに進むということとは違ひ」「信念が大切」といわれる。世の中思い通りに行かないけれど、別に誰かが見てくれていると信じて、行うことがよい、と理解できる。先に私が「めくら千人、めあき千人」といったことと相通ずるように思ふ。「『信』は、実は向こうから来るのだ、といわれたら、人はそれを待ちつつ念仏するかもしれませぬ。」これを今の皆さんに置き換えてみれば、目先の利害にとらわれず信念と希望を持って進んでいけば、必ず道は開ける、ということだと思ふ。ただし、人間は煩惱、我欲に発しがちであるとなつねに自省すべきである。正義をふりかざし戦争に突き進んだ為政者のいかに多かつたことか。市井の人間でも正義を振り回したり、偽善を働く人がいかに多いことか。そういう世の中で誰かが見てくれていると信じて行う必要があると思ふ。

HPを見て下さい。又何でも意見を。

皆さんのご意見を歓迎します。HP (<http://www.finance.ritsumei.ac.jp/matsumura/>) もご覧下さい。また、メールで意見交換しましょう。メールをよこして下さい (matsumura@ba.ritsumei.ac.jp)。